

## 5. その他

<ul style="list-style-type: none"> <li>・カルテ記載 (症状経過のみ学生のサインとともに書き入れ、主治医のサインを受ける)</li> <li>・健康教育 (一般的内容に限る)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者への病状説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への症状説明</li> </ul>
---	---	---

## 資料4：医師国家試験改善検討委員会報告書

厚生省\* (平4.2.24)

本委員会は、医療関係者審議会医師部会の専門委員会として平成2年3月に設置されて以来、医師国家試験の改善の方策を検討してきた。

まず、国家試験実施と合格発表の時期については、既に報告したとおり、従前の「4月上旬試験、5月中旬合格発表」を改め、当面「3月中旬試験、4月下旬合格発表」とし、これを平成5年の春から実施することとした。これにより、卒前の医学教育からの卒後の臨床研修への連続性が一段と確保されることになった。

医師国家試験出題基準については、前回昭和63年に改定され、平成元年の国家試験から施行されているところであるが、この改定について検討を行った。

そこで、平成3年7月に、医師国家試験出題基準検討委員会(委員長：高久史麿)を設け、基本的知識・技能を重視するという前回改定の方針を堅持し審議したところ、現行出題基準に一部残っている伝統的な診療科単位の章構成を廃止し、医学総論と医学各論の二系統に全体を再編成する原案を得た。これについて、各医育機関の意見を聞いたところ、概ね望ましいとの評価を得た。これらの結果を総合的に勘案し、本委員会は、医師国家試験出題基準を別添のごとく改定すべきであると結論するものである。

なお、今回の主な改善点は次のとおりである。

## 1. 基本的臨床知識・技能を更に重視し、医学の新

しい発展にも配慮する観点から、記載項目を精選した。

2. 医学・医療総論を医学総論と改題し、これに現行の公衆衛生の一部、放射線科等の領域を取り込み、一層の包括化を図った。
3. 全診療科の各論を医学各論の中に系統別に再編し、全人的な医療を指向する出題を容易にするとともに、必須科目と選択科目の区別を廃止した。

今般の抜本的な出題基準の改定が、実効を伴ったものとなるために、次の事項について適切な措置が取られることを要望する。

1. 基本的知識・技能を重視し、社会問題にも配慮するため、医学総論からの出題を充実する。
2. 出題に当たっては、卒前教育の現状を十分考慮する。
3. 旧来の診療科の枠にとらわれない出題ができるよう、試験委員会の組織・運営を改善する。

今後は、合格発表の迅速化や出題基準について、今回の改善結果を踏まえながら更に改良を加えるための検討を進めるとともに、医師国家試験の実施・研究体制の充実を期すため、試験問題形式の改良、試験結果の医学教育への還元等、かねてからの懸案事項について、逐次審議をしていくこととする。

\* 医師国家試験改善検討委員会、委員長：高久史麿